

海上自衛隊横須賀総監部ツアー



自衛隊神奈川地方協力本部
横浜中央募集案内所（所長 大柿文明（陸尉））は9月15日（木）に海上自衛隊横須賀地方総監部の支援を得て、横須賀基地の見学を実施しました。



自衛隊横須賀中央募集相談員会会員10名と自衛隊志願の募集対象者2名の計12名が参加し、海上自衛隊の概要説明、タグボートでの港内クルージング、体験喫食、岸壁からの艦艇見学など盛り沢山の内容でした。日頃から協力をいただいている募集相談員の皆様に自衛隊に対する一層のご理解を得るとともに、募集対象者へ自衛隊の魅力やPRし入隊意志を高める目的で実施しました。

募集相談員から募集対象者へ自衛隊の魅力をお話いただく機会もあり、募集対象者の1人は自衛隊が第1志望でしたが、もう1人の募集対象者は、この見学を機に第1志望へと変わったようで、基地見学の成果が出たとともに、このような広報活動の重要性を再認識しました。

横浜中央募集案内所は、今後も自衛隊協力者の自衛隊に対するご理解を深め、ご協力を頂くとともに、募集対象者へのフォローを親身になって行い、入隊につながるように尽力していきたく考えています。

横浜市立大学において防衛講話開催 海上自衛隊の海外任務の意義を解説

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 荒木3陸佐）は、10月19日、横浜市立大学国際教養学部において、専門科目の『グローバル人材論』（瀬田真准教授）での防衛講話を支援しました。防衛講話は、神奈川地方協力本部の平井克英本部長を講師に「海上自衛隊の海外任務」と題して行われました。

講話の内容は、①わが国の置かれた地政学的状況と②海上自衛隊の海外任務の2つのテーマを軸に構成され、前者については、わが国が6,852の島で構成され、世界第6位の海上面積と豊富な海洋資源を有し、5つの重要海峡を抱えた貿易立国であり、かつエネルギーはほぼ海外依存していることを挙げながら、わが国が典型的な海洋国家であることを指摘され、このことを前提に②のテーマに話題を移し、特に「海賊対処活動」と「中東における情報収取活動」について、事例を示しながら説明が行われました。

講話の総括として、海上派遣部隊は「海の安定」という目的のために厳しくとも誰かがやらなければならないとの自覚をもって任務を継続していること、国内からの応援メッセージが乗員のモチベーションの維持につながっていること、国内の部隊は日々送付される写真を見て、厳しい中東で活動している仲間への感謝を忘れずに無事の任務完了を祈念していることを述べたうえで、「これが海上自衛隊の伝統であり、文化である」と締めくくりました。

講話終了後には、「ポジティブリスト／ネガティブリストに係る問題」、「国際法と国内法のはざ間で司令官はどのように判断するのか」、「自衛官のキャリア形成」など学生から多数の質問が出されました。

学生達に、自衛隊の国際貢献活動の一端を伝えることに加え、自衛隊の役割について、具体的なイメージを醸成してもらう機会になったようです。

